



風見鶏

春待ち りこ

ニワトリさんの風見鶏
くるくるくると流されて
風の向くまま右左
調子がいいよね
風見鶏

ニワトリさんの風見鶏
それはちがうよ　ほんとはね
風の力を借りながら
探しているのよ
ひよこたち

ニワトリさんの風見鶏
あちらこちらを見渡して
今日もはぐれたひよこたち
探し続ける
おかあさん

朝でも昼でも夜中でも
休むことなく探してる
愛しい我が子にもう一度
いつか出会える
その日まで

丘の上の風見鶏

町全体が見下ろせる
少し小高い丘。。。
ふうちゃんは、この場所が大好きでした
だって。。。
ふうちゃんのおうちも
公園も学校も
ケイちゃんのおうちだって
全部、見渡せちゃうのですから

その丘には
古ぼけた風見鶏がありました

いつも風に流されて
くるくるくと回ります

風が変わるたび
あっちを向いたり
こっちを見たり

ふうちゃんは
このニワトリは。。。
調子がいい奴だと思っていました

だって、いつもふうちゃんのお父さんが言っているんです

正しいと思ったら
他の誰がなんて言おうと
正しいほうを向いて歩いていきなさい
ふうちゃんは、お父さんの言うことは
大抵、正しいって思っていました

だから、ふうちゃんには
こんなふうにあちこち向きを変えるこの風見鶏が
なんとなく好きにはなれませんでした

ある日、ふうちゃんがお父さんとその丘へ
遊びに行った時のこと

「お父さん、私ね。。。
ここからの眺めが大好きなの
でも、この風見鶏は嫌い。。。
だって、このニワトリ。。。調子がいいよね。」

お父さんはなぜか、少し悲しそうな表情になりました

「ふう。。。
それは違うよ。」

「えっ、何が違うの??？」

お父さんは。。。しばらく風見鶏を見つめた後
ふうちゃんにこんなことを言いました

「この風見鶏のお話。。。
聞ukai？」

「うん、教えて！！！」

ふうちゃんがそう言うと
お父さんは静かに話し始めました

それは、お父さんがまだ小さい頃のお話でした

そのころ、おじいちゃんは
ニワトリを飼っていたそうです

ニワトリは卵を産みました
大切に大切に温めて
やがて、卵は孵り
そのニワトリは、三羽のひよこのおかあさんになりました

毎日、それは楽しそうに
庭中を連れ立って歩きまわっていました

でも、ある日。。。

何匹かの野良猫が、ひよこたちを襲いました
あっという間の出来事です

そのままひよこたちは
野良猫につれさられ。。。

それから、おかあさんニワトリは
ずっと、ひよこを探しまわっていたそうです

ニワトリは、空が飛べません

少しでも見晴らしのいいこの丘に登って
あちらをさがし
こちらをさがし

餌も食べずに
眠りもせずに

そうしてやがて、弱って行って
とうとう、おかあさんニワトリは死んでしまいました

おじいちゃんは。。。
おかあさんニワトリをたいそう可哀想に思って
この丘に風見の鶏を置いたそうです

風の力を借りながら
ずっとひよこたちを探してられるように

この風見鶏には
そんな意味があったんです。。。

お父さんのお話が終わった時
ふうちゃんの目には涙が浮かんでいました

「おかあさんニワトリは今も
ひよこたちにあえないままなの??」

そんなふうちゃんの問いかけに
お父さんは、答えました

「大丈夫、きっともう見つけているさ。
天国でずっと、親子仲良く
連れ立って歩いてる。
お父さんは、そう思っているよ。」

ふうちゃんは、ほっとしました

だって、お父さんの言うことは
大抵、正しいと思っていましたから。。。

ふうちゃんはもう一度
風見鶏をジッと見ました

風見の鶏は今日もまた
風の流れに身を任せ
くるくるくるっと回っていました。。。

おしまい